

# 社会福祉系学会連合ニュース（2014年1月号）

## 1. ご挨拶

日本社会福祉系学会連合会長 副田あけみ

新しい年が始まりました。本年も、どうぞよろしくお願いいたします

日本社会福祉系学会連合の主な活動は、日本学術会議社会学委員会社会福祉学関係分科会への協力、日本の社会福祉系学会の活性化、交流と連携、研究条件向上のための社会的活動などです。連合では、今年度より、加盟学会の皆様との情報共有をさらに深めるため、「社会福祉系学会連合ニュース」を適宜、メールにて配信させていただくことになりました。

連合では、東日本大震災直後から、震災復興のあり方や復興における福祉専門職による支援と課題、被災地への福祉支援と地域福祉の課題など、震災復興や被災者支援に関するシンポジウムを行ってきました。本年度は、「原子力災害と住民生活の行方」（2013年5月12日、福島学院大学駅前キャンパス）、「災害福祉研究における社会福祉系学会の役割～研究活動を通じて～」(2013年11月30日、郡山女子大学)というテーマで2つのシンポジウムを開催しました。

また、昨年度から、災害福祉アーカイブ([http://www.gakkai.ne.jp/jaswas/saigai\\_archive/](http://www.gakkai.ne.jp/jaswas/saigai_archive/))の整備・充実に努めてきました。今後も起こりうる災害への支援や防災のあり方を社会福祉の観点から検討し、研究していくためには、このたびの震災をはじめとするさまざまな災害に関する文献の集積が重要と考えたからです。

現時点(2014年1月末)で、災害福祉の文献リストには、図書130本以上、論文140本以上、報告書60本以上を掲載しています。事務局では、今のところ、災害福祉を広義に捉え、社会福祉学以外の学問領域の研究も部分的に掲載しています。今後も充実に努めます。

災害福祉アーカイブの開設・整備事業は、現在、文献リストの作成に留まっており、論文や報告書のデータをダウンロードできる仕組みにはなっておりません。今後、災害福祉に関する文献のご紹介やご連絡をいただく際には、可能であれば、論文や報告書等のPDFもお送りいただき、それを連合のサイトに掲載していただければと考えています。

社会学のほうでは、Sociological Forum Japan というサイトを開設して、社会学や社会福祉学領域に関する研究を海外に発信するよう投稿を呼びかけたり、3.11に関する調査研究等の英文リストを作成するなど、研究情報を海外に積極的に発信しようとしています。連合の災害福祉アーカイブにおいても、こうした海外発信の方法を検討していく必要があると考えています。これらの課題について、また、2014年度の事業として災害福祉に関する公開研究会を実施する案について、今後、連合の会議において検討していきます。

最後に改めて、皆様にお願ひです。アーカイブに加える図書、報告書、論文、関連アーカイブ、支援活動等がありましたら、ぜひ、その情報を学会連合事務局([union\\_jssw@gakkai.ne.jp](mailto:union_jssw@gakkai.ne.jp))までお寄せください。また、各学会の2014年度の大会予定、機関誌に関する情報等をまだ事務局までお寄せいただいている学会は、ご連絡いただければ幸いです。

今後も引き続き、連合の活動にご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

\*\*\*\*\*

## 2. 日本学術会議(社会福祉学関係分科会)の動向

学会連合運営委員(日本学術会議担当) 金子光一

本連合は、日本学術会議の社会福祉学関係分科会の活動を支援しています。ここでは、本年度

に日本学術会議・社会学委員会で取り組まれた3つの分科会(「社会福祉学分科会」・「社会福祉系大学院のあり方に関する分科会」・「社会福祉学分野の参照基準検討分科会」)の動向をお知らせします。

まず、「社会福祉学分科会」では、東日本大震災によって生じた多くの生活問題に対して社会福祉が何をなすべきかを焦点に検討を重ね、その成果を、2013年5月2日に『提言：災害に対する社会福祉の役割－東日本大震災への対応を含めて－』として公表しました。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t172-1.pdf>)

また、「社会福祉系大学院のあり方に関する分科会」では、今後の社会福祉系大学院のあり方に関する提言の作成に向けた作業が進められました。本年度中に公表される提言には、社会福祉系大学院の現状、社会福祉系大学院が抱える課題、社会福祉系大学院の先駆的な取り組み事例などを紹介しながら、潜在的な需要にマッチする社会福祉系大学院は、これからどうあるべきなのかが盛り込まれる予定です。

さらに、2013年7月に「社会学委員会社会福祉学分野の参照基準検討分科会」が発足し、社会福祉の参照基準に関する検討が始まっています。「社会福祉とは何か？」という本質的議論は、これまで日本学術会議社会学委員会でも正面から行っておりませんが、日本学術会議の法学委員会や経営学委員会の動向を踏まえて、今回社会福祉に対する共通認識をもつことを目的に議論が進められています。同分科会は、来年度初めに、公開シンポジウムを開催し、大学教員・研究者・実践者など様々な意見を集約し、答申を作成する予定です。また、この答申に基づいて中等教育機関(中学校・高等学校)で活用できる社会福祉のパフレットを作成することも検討しています。

日本学術会議の活動に対して、ご意見・要望などございましたら、ぜひお寄せください。

\*\*\*\*\*

### 3. 2013年度の活動状況

#### (1)2013－2014年度 学会連合運営委員会構成

2013－2014年度の本連合運営委員は、下記の9名で担当してまいります。

会長	副田あけみ(日本社会福祉学会)
事務局長	和気純子(日本社会福祉学会)
庶務担当委員	梅崎薫(日本社会福祉学会)
会計担当委員	遠藤久江(日本キリスト教社会福祉学会)
日本学術会議担当委員	金子光一(社会事業史学会)
震災対応委員	杉本敏夫(日本看護福祉学会)
同上	山下興一郎(日本地域福祉学会)
広報担当委員	小櫃俊介(日本社会福祉学会)
監事	川上富雄(日本社会福祉教育学会)

#### (2)東日本大震災への対応

本年度は、東日本大震災に関わる調査研究の進捗状況と加盟学会の取り組みを共有するため、下記のとおり2回のシンポジウムを開催したほか、連合HP内に「災害福祉アーカイブ」を設け、震災関連研究の単行本、論文、報告書などの情報を随時収集し、掲載しています。なお、各回のシンポジウムの報告は近日中に本連合のHPに掲載いたします。

#### 1) 第1回シンポジウム

- 1 期日:2013年5月12日(日)13時~16時
- 2 場所:福島学院大学駅前キャンパス
- 3 主催:日本社会福祉系学会連合
- 4 共催:日本社会福祉学会東北部会
- 5 後援:福島学院大学、福島大学、いわき明星大学
- 6 司会:福島学院大学 日下輝美氏
- 7 基調講演:「原子力災害と住民生活の行方」

明治大学特任教授・福島大学名誉教授 鈴木 浩氏

シンポジウム「原子力災害と住民生活の行方」

<シンポジスト>

福島県:福島県企画調整部避難地域復興局次長	安齋睦男氏
いわき市:いわき市保健福祉部次長	園部義博氏
大熊町:大熊町副町長	鈴木茂氏
<コーディネイター>	福島大学 丹波史紀氏
<コメンテーター>	日本福祉大学 野口定久氏
	いわき明星大学 鎌田真理子氏

#### 2) 第2回シンポジウム

- 1 日時:平成25年11月30日(土)15時40分~17時
- 2 会場:福島県郡山市開成3丁目25番2号 郡山女子大学 芸術館大教室
- 3 入場料:無料
- 4 テーマ「災害福祉研究における社会福祉系学会の役割~研究活動を通して~」
- 5 シンポジウム

コーディネイター	副田あけみ(日本社会福祉系学会連合会長/日本社会福祉学会)
発題者	野口定久(日本社会福祉系学会連合前会長/日本地域福祉学会)
	藤森雄介(日本仏教福祉学会 淑徳大学)
	石田易司(日本福祉文化学会 桃山学院大学)

\*\*\*\*\*

#### 4. 事務局移転のお知らせ

社会福祉学会連合事務局は、規程により日本社会福祉学会事務局内に設置することになっております。すでに社会福祉学会のニュース等で周知されていると思いますが、日本社会福祉学会の事務局が2014年4月1日より、(株)国際文献社に移ることになりました。これにより、本連合事務局も現在の四ツ谷にある社会福祉学会事務局から、国際文献社内の社会福祉学会事務局(東京都新宿区山吹町358番地5 アカデミーセンター)に移転いたします。電話番号など連絡先の詳細は、おってお知らせいたします。

今後とも、本学会連合の活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本社会福祉系学会連合  
事務局:日本社会福祉学会気付  
TEL:03(3356)7824 FAX:03(3356)7820  
Mai: union\_jssw@gakkai.ne.jp  
<http://www.gakkai.ne.jp/jaswas>